

攻落せしと其勢武百人余ありと云ふ事ける
先海味之昌勝白岩之武政大将にて山く谷く
鳴き走り押寄る海味之草薙前一千余
にて海味之もの見を出しかりを焼きて守り
たりある所大將昌勝百人余一手に成て
おかる所も軍を用て戦へしか海味之必
死の戦ひに切立られ陣屋に火を懸て燃へし
るきある所大將草薙筑前腹を立云ひある
き者其を敵僅少勢あり追立お取れやと知
して自ら長刀を振廻し先に進んで戦ひける

東海林新設意と云ふ者逃りて突倒し馬より
落る所を馳つて首を取ると横田主水遣水
動大將と云ふ主水草薙を目の前まで付れて安か
なる所を新設意と云ふ所より馳寄り押寄せ
取付しを新設意と云ふ事と云ふ所横田を
海の上帯共捉へて投げ付け遣水を壓押へる
傷かされ鞍の前端に押付け首をとる此傷に肝
を痛くする所付れ火に燃えたる雑兵も白岩
より引退る日昌勝兵百人余と追打し
引返り海味之要害を堅めり白岩は志村